

[テーマ]

基準Ⅲ-B 物的資源

- (a) テーマ全体の自己点検・評価の要約を記述する。

校地、校舎等の物的資源の整備活用状況については、本学キャンパスは、大学共用部を含めて 103,049 m<sup>2</sup>の校地を有している。学生数は約 700 人である。校舎の延床面積は 11,842 m<sup>2</sup>（専用部分は 8,912 m<sup>2</sup>）で、短期大学設置基準を十分満たしている。

講義室は 21 室あり、本学の特色であるクラス担任制に対応している。また、昨今の AV 機器を使用しての授業に対応するため、固定式スクリーン 18 台、パソコン・プロジェクターセット 18 台、モニターテレビ・DVD プレイヤーセット 8 台、モニターテレビ・DVD プレイヤー・VHS ビデオプレイヤーセット 2 台を用意し、授業に有効に活用されている。

図書館は、A 棟にあるが、金城大学との共同利用施設である。平成 23（2011）年度から新図書館システムを導入し、万全なデータ移行とスムーズな稼働開始を達成している。蔵書数・面積等は基礎資料のとおりであるが、現在の蔵書数は収納能力を 3 万冊以上超えており、慢性的な図書収容能力不足で分かりにくい配架の原因になっている。購入図書の選定については、「図書館収蔵資料の推薦基準」に基づき、教員個人からの推薦・学部推薦（10 万円以上）及び学生リクエストなどにより選定された図書リストの中から金城大学と本学共通の図書委員会で選定購入している。一方、破棄は「図書館収蔵資料の除籍基準」に基づき行っている。

施設設備の維持管理に関する諸規程については、「固定資産及び物品管理規程」、「防火管理規程」、「経理規程」等、財務に関する諸規程及び図書館に関する諸規程、コンピュータ・ネットワークに関する諸規程等を整備し、それらの規定に従い適正適切に維持管理している。さらに用務職員が、毎日巡回管理を行っている。

耐震工事は、昭和 56（1981）年以前に建設した校舎の耐震診断を行い、平成 21（2009）年に耐震補強工事を実施した。

防災訓練は、平成 24（2012）年 10 月 19 日に本学及び金城大学合同で火災発生を想定した避難演習を行い、学生・教職員およそ 1,000 人が約 5 分で避難を完了し、避難経路の確認及び防災意識の高揚を図った。

コンピュータシステムのセキュリティ対策は、金城大学と本学の共同運営している「金城大学コンピュータ・ネットワーク管理センター」が中心となって行っている。具体的には、DMZ セグメントの導入や SSL によるメール送受信など基本的なセキュリティ対策を教員が行っている。

- (b) 自己点検・評価に基づく改善計画を記述する。

図書館の配架を見直し、より利用しやすく整備する。

## 〔区分〕

## 基準Ⅲ-B-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備、活用している。

## (a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

校地、校舎等の物的資源の整備活用状況については、本学キャンパスは、金城大学と共用で、103,049 m<sup>2</sup>を有し、設置基準を充足している。また、校舎の延床面積は11,842 m<sup>2</sup>（専用部分8,912 m<sup>2</sup>）で、短期大学設置基準6,300 m<sup>2</sup>を十分満たしている。

校地・校舎は基本的にバリアフリーとなっており、障がい者にも対応したスロープ、点字ブロック、手すり、点字表示、エレベーター、トイレ、駐車スペースが確保されている。

講義室は21室あり、本学の特色であるクラス担任制に対応している。また、昨今のAV機器を使用しての授業に対応するため、固定式スクリーン18台、パソコン・プロジェクターセット18台、モニターテレビ・DVDプレイヤーセット8台、モニターテレビ・DVDプレイヤー・VHSビデオプレイヤーセット2台を用意し、授業に有効に活用されている。

その他、演習室15室、実験実習室23室、情報処理演習室3室を設置し、教育の充実を図っている。これらの教室のうち、次の4室は、幼児教育学科の学習成果を達成するために有効に機能している。

A棟204教室（ナーサリールーム）は、各種遊具や玩具・子ども（幼児）規格の椅子やベッド・保育関連の演習実践用教材等を配備した演習室で、特化教育の「乳児保育」「障害児保育」、「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」など、保育・幼児教育の専門科目を中心に使用している。

さらに、授業で招いた乳幼児との交流の場や子育て中の保護者を対象にした講座等、学外者や地域の子育て支援活動の一環として施設開放を図り、積極的に活用している。

A棟141教室（幼児教育学科演習室）は、幼児教育学科の各美術関連科目の演習室で、特化教育の「美術」、「美術Ⅰ」、「保育内容・表現Ⅰ」などで使用している。作業や制作が容易で安全に展開できるよう、フリースペースに配慮して作業机を設置し、洗い場も設けてある。また、各種材料や備品を保管する倉庫を備えている。

A棟328教室（リズム室）は、体育館仕様の小型運動室で、特に壁の1面はすべて鏡面になっていて、各種身体表現に適した施設になっている。また、グランドピアノを配置してあり、音楽表現関係の授業にも活用している。「幼児体育Ⅰ・Ⅱ」、特化教育の「音楽」、「保育内容・表現Ⅱ」、「総合表現演習Ⅰ・Ⅱ」などの授業で使用し、年間を通じてほぼすべての時間でいずれかの授業が行われている。

A棟301教室～311教室及びA棟318教室～327教室の21室は、それぞれピアノ（アップライト）1台と椅子数脚を配置したピアノレッスン用個室である。「器楽」や「ピアノ講座」、併設校である遊学館高等学校の自主講座等に使用

している。また、レッスン時間以外は学生が自由に練習できるよう全室を開放している。

なお、A 棟 135 教室には大学コンソーシアム石川の事業の一環として遠隔 TV 会議システムが設置してあり、「シティカレッジ単位互換授業」や FD・SD 研修等で利用している。さらに、3 学科とも共通で使用する 200 台弱のパソコンが、3 つのコンピュータ室（A 棟 131・132・133 教室）、A 棟 135 教室とコンピュータ準備室（A 棟 134 教室）に設置されている。その内、A 棟 132 教室と A 棟 134 教室には平成 22（2010）年度に文部科学省の「教育基盤整備」の助成を得て、クラウド型のクラスルームシステムを導入した。

このシステムは

- ①管理作業が効率的に行える
- ②低コスト
- ③省エネルギー

であることで近年注目されているシステムである。このシステムの導入により、年度ごとのソフトウェア更新や日常管理の作業負担が軽減された。

一方、上記のコンピュータ室は WindowsXP のシステムであり、OS の老朽化が懸念されていたが、平成 24（2012）年度にも文部科学省の「教育・研究装置及び教育基盤・研究設備」の助成を受け、平成 25（2013）年度に Windows8 が動作するパソコン 80 台を導入する。

平成 24（2012）年度には文部科学省の「私立大学教育研究活性化設備整備事業」に「アクティブラーニング設備による遊学精神の深化」事業が選定され、ノートパソコン、プロジェクタ、画像編集用パソコン、クリッカーなど全学的にアクティブラーニング設備を充実し、学生のグループ学習等による主体的な学びの活性化を図っている。今後時間外学習の大幅な増加が期待され、ひいては学生の「遊学の精神」がより一層深化するものと確信する。

図書館は、A 棟にあるが、金城大学との共同利用施設である。平成 23（2011）年度から新図書館システムを導入し、万全なデータ移行とスムーズな稼働開始を達成している。蔵書数は約 98,000 冊を超え、閲覧席は 212 席設置してある。【備付資料：No.71・72・73】

現在の蔵書数は収納能力を 3 万冊以上超えており、慢性的な図書収容能力不足で分かりにくい配架の原因になっている。購入図書の選定については、「図書館収蔵資料の推薦基準」【備付資料：No.75】に基づき、教員個人からの推薦・学科推薦及び学生リクエストなどにより選定された図書リストの中から金城大学と本学共通の図書委員会で選定購入している。一方、破棄は「図書館収蔵資料の除籍基準」【備付資料：No.76】に基づき行っている。

運動施設としては、体育館、テニスコート 7 面、陸上競技場（400mトラック 6 コース、夜間照明設備）、多目的グラウンド（ソフトボール場）を設置し、授業やクラブ・同好会活動に利用されている。【備付資料：No.71】

- (b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

図書館の蔵書数は収納能力を3万冊以上超えており、慢性的な図書収容能力不足で分かりにくい配架の原因になっている。

### 基準Ⅲ-B-2 施設設備の維持管理を適切に行っている。

#### (a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

施設設備の維持管理に関する諸規程については、「固定資産及び物品管理規程」、「防火管理規程」、「経理規程」等、財務に関する諸規程及び図書館に関する諸規程、コンピュータ・ネットワークに関する諸規程等を整備し、それらの規定に従い適正適切に維持管理している。さらに用務職員が毎日巡回管理を行っている。

本学の水道は井戸を水源としており、毎月給水系統ごとに10項目の検査を実施し、安全を図っている。また、学内清掃業務は毎日、受電設備・電話交換機・エレベーターは毎月1回、自動火災報知機及び消防設備、地下灯油タンクは年1回専門業者に委託して、点検整備を行っている。【備付資料：No.70】さらに、日々の校舎内は用務職員が1日3回巡回し、防犯対策や設備の異常の発見に努めている。

耐震工事は、昭和56(1981)年以前に建設した校舎の耐震診断を行い、平成21(2009)年に耐震補強工事を実施した。

防災訓練は、平成24(2012)年10月19日に本学及び金城大学合同で火災発生を想定した避難演習を行い、学生・教職員およそ1,000人が約5分で避難を完了し、避難経路の確認及び防災意識の高揚を図った。

コンピュータシステムのセキュリティ対策は、金城大学と本学が共同運営している「金城大学コンピュータ・ネットワーク管理センター」が中心となって行っている。具体的には、DMZセグメントの導入やSSLによるメール送受信など基本的なセキュリティ対策を教員が行っている。

本学の地球環境保全の取組の一つは、平成22(2010)年3月から「チャレンジ25キャンペーン」に参加していることである。本学の取組及び成果は次のとおりである。

#### ①冷房は28℃、暖房は20℃に設定しよう（温度調節で減らそう）

事務局では平成18(2006)年夏以降、クールビズ活動を展開している。活動当初は8・9月の2ヶ月間の実施であったが、年々期間を延ばし平成24(2012)年度は6月～9月の約4ヶ月間の実施としている。

その他、啓発的な活動として、金城大学・本学の掲示板などにポスターを掲示したり、各教室の温度計には冷暖房の適正利用を促すステッカーを貼ったりしている。

#### ②蛇口はこまめにしめよう（水道の使い方で減らそう）

学内ポスター掲示による啓発活動を行っている。

#### ③アイドリングをなくそう（自動車の使い方で減らそう）

「エコドライブ10のすすめ」など学内ポスター掲示による啓発活動を行っ

ている。

④エコ製品を選んで買おう（商品の選び方で減らそう）

学内ポスター掲示による啓発活動のほか、事務局における事務用品の購入に際し、エコマーク商品を購入基準の1つとしている。

⑤過剰包装を断ろう（買い物とごみで減らそう）

売店への働きかけにより、レジ袋不使用及びマイバッグ持参を推進するポスターを掲示している。ポスターは一般教育科目「環境学」の受講生による課題作品として作成した。

⑥コンセントからこまめに抜こう（電気の使い方で減らそう）

学内ポスター掲示による啓発活動を行っている。省エネタップの導入をすすめ、待機電力の削減に取り組んでいる。その他の省エネ対策としては、通路照明の間引きや、外灯の点灯時間の短縮を行っている。

⑦その他の活動による温暖化防止

エネルギー使用量（電気、水道、ガスなど）のモニタリングを強化し月間比較、年次比較を行っている。

事務局において原則毎週水曜日を「ノー残業デー」とし、エネルギー消費（特に電気消費）の効率化を図っている。

平成18（2006）年度以降、金城大学及び本学において、夏季期間中、建物壁面のアサガオ緑化による断熱及び冷房効率の向上を図っている。温暖化防止以外のところで、緑化による心理的なアメニティ効果も実現できたと思われる。平成24（2012）年度はアサガオ・ゴーヤ緑化による遮光効果があった。

その他、温暖化防止の一助となるべく、学内緑環境の維持管理の充実を図っている。

さらに、平成22（2010）年度以降、「チャレンジ25キャンペーン」の取組について、一般教育科目「環境学」を通じて学生への啓発を行っている。

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

特になし。